

産学官連携イベントレポート

『第10回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会』審査会・表彰式レポート

平成26年3月6日（木），霞山会館（東京都千代田区霞が関）で『第10回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会』が開催され，8地区（北海道・東北・東京・中部・大阪・中国・四国・九州）の「学生によるビジネスプランの提案コンテスト」のエリア代表プラン（14件）の中から，ビジネス・テクノロジーの各大賞と特別賞が決定しました。中国地域からは，広島商船高等専門学校の山根さん他3名（プラン名『USAKAME一次世代娯楽型リハビリテーション支援システムー』），広島大学の和さん（プラン名『緑色（green）マスク』）が出場され，堂々としたプレゼンで健闘されました。その結果，広島商船高等専門学校の山根さんが審査員特別賞を受賞されました。広島大学の和さんの発表については惜しくも入賞は逃しましたが，審査員の方から「発想が面白い」と評価するコメントがありました。



広島商船高等専門学校の山根さん他3名



広島大学の和さん

《受賞プラン紹介》

○経済産業大臣賞（ビジネス部門大賞）

早稲田大学大学院 今西 良光さん

『従業員満足度と組織の生産性を上げる“ほめる”社内SNS Pozica(ポジカ)』

今西さんは自らの就業経験において，企業では今でも気合と根性によるマネジメントが主流となっており，従業員の心身を蝕んでいることを痛感されたとのこと。この問題を改善したいという発想で，「現場の小さな承認を増やす」をコンセプトとして感謝の気持ちを持ちをウェブにのせライン感覚で簡単に楽しんで使える社内システムを考案されました。褒めたり感謝したりすることを増やすことで，従業員離職率の低下や事業運営の改善・効

率化、風土改善にも寄与することが期待されます。現在数社にサービスを提供しているということであり、「既に事業展開している」点が、今回、高評価を得た大きなポイントであったと感じました。

○文部科学大臣賞（テクノロジー部門大賞）

法政大学 富岡 大地

『育児に安心と安全を届ける～Baby Anklet～』

富岡さんは、現状、育児の際に不慮の事故による乳児の死亡率が高いことや、親側には乳児に付きっきりとなるためストレスを溜めるといった問題に着眼し、乳児の足首に取り付けたウェアラブル機器と親用ブレスレットで、離れていても乳児と親をつなぎ相互に安心と安全を届ける製品を開発されました。親は目を離していても乳児の状態を把握することができるため、常に緊張している必要がなくなりストレスが軽減できます。審査員からは機器の使い回しによる衛生面の課題を指摘されましたが、私自身、育児経験を思い出し、親の目線で大きなニーズがあると考えられ、是非、課題をクリアし事業化に漕ぎつけて欲しいと感じました。

○MIT 賞（テクノロジー部門）

北九州工業高等専門学校 片山 将

『Sky Eye ～あなたの街を見守る“目”になります～』

片山さんは撮影カメラを内蔵したカプセル型の機器「Sky Eye」を開発されました。台風などの災害発生直後の強風時でヘリコプター飛行が困難な状況下、野球のピッチングマシーンに空に向けた様な形状の発射装置により Sky Eye を上空に投入し、地上高最高点に到達し、理論上、鉛直方向の速度がゼロとなった瞬間に地上を撮影するというアイデアです。空中での姿勢を保持するため機器の上半分は高速回転、一方、カメラをセットした下半分は上半分と等速で逆回転し、撮影方向（真下）を固定するということす。実用化に向けて今後解決すべき技術的課題は残されているとされながらも、発表者の若々しい情熱とチャレンジ精神が感じられ、とても眩しく感じました。

○日刊工業新聞社賞（ビジネス部門）

小樽商科大学 荒谷 沙織

『わんコック～ママは僕のコックさん～』

荒谷さんはペット関連製品市場の拡大傾向を背景に、「ペットの食事をより楽しく簡単に手作りする」というライフスタイルの提案を軸にした会員制愛犬家交流 SNS の運営を考案

されました。収入源はプレミアム会員からの会費，ペット関連事業者からの広告，ペット関連事業者向けデータコンサル等とし，顧客ターゲットは手作り食づくりに興味ある方，市販フードを使用している方，子育て中で我が子にも料理を作っている方などとのことです。

技術面等での大きな課題はないと思われ，近年のペットブームを考えると，短期間で事業として成立するのではないかと期待を抱きました。

○審査委員特別賞（ビジネス部門）

会津大学 尾上 友一朗

『会津の四季を詰め込んだ会津名物「さくらあげ」』

尾上さんは福島県会津地域の特産品であり低カロリー，低コレステロール，高タンパクな食材の馬肉を使った新たな会津の名物ファーストフード「さくらあげ」を考案されました。高カロリーの従来のファーストフードとの差別化を図り，会津の良さを引き出すことができるとの発想です。会津の地元の方にとどまらず観光客や限定商品に関心のある方などをターゲットとし，全国に広めることで東日本大震災からの復興と再生を目指す福島県（会津地域）の支援の一助になればとのこと。ほのぼのとしたアイデアや発表態度にも好感が持て，是非実現してほしいと思いました。

○審査委員特別賞（テクノロジー部門）

広島商船高等専門学校 山根 奈々

『USAKAME一次世代娯楽型リハビリテーション支援システムー』

山根さんは高齢者の認知症予防に向けて有効な，両手先のグーパー運動を，楽しく効果的かつ介護者の負担が軽減できるよう，コントローラ操作によりテレビ画面上でウサギとカメが競争するゲームを開発されました。見学した介護福祉施設で，リハビリテーションの一つとしてグーパー運動を行っていることを知り発案されたとのことであり，事業化の実現性は高いと思うとともに，堂々として落ち着いた発表態度や審査員からの質問に対する的確な回答には心底感服しました。審査員からも「よく勉強していますね」のコメントをいただき，中国地区から選出された代表の発表として，私自身も誇らしい気持ちになりました。

〈全国大会を聴講しての所感〉

ベンチャーとして起業し，事業展開していく過程で，次々と現れるであろうハードルをクリアし，成し遂げるためには，まず自分自身が「このアイデアは面白い」と心底思えること，加えて将来の成功を信じる強い自負と熱意が必須であると思います。その面では各

発表者ともに意気込み・エネルギーに溢れており、とても頼もしく感じました。正直、私自身もパワーをもらった気持ちです。また、審査においては発表者の意欲とともに、「マーケットと対話し PDCA を回していること」が重視されました。学生の皆さんには、学業との両立との兼ね合いもあり、事業化の検討にさける時間もまちまちと思いますが、是非、ターゲットとする顧客層や企業へのアプローチを通じて自分の構想をブラッシュアップしていただきたいと思いました。

(中国経済連合会 有馬)